



箱の浦の事は箱の浦で解決を、 住んで良かった箱の浦に

……箱の浦自治会まちづくり協議会【大阪府阪南市】



団体設立経緯

箱の浦地域の自治会加入率は90%を超えています。箱の浦自治会は阪南市内の自治会の中でも活発な活動をしていますが、自治会役員・班長は毎年交替するために継続した事業が困難になっています。高齢化が進むなか「いつまでも住み続けることができる箱の浦に」していくため、平成24年6月に自治会役員経験者、地域の民生委員や有志が集まり「まちづくり協議会」を設立しました(自治会とは協力・共同の関係にあります)。

地域概要

箱の浦は40数年前に開発された一戸建ての団地です。阪南市の西端にあり、北は大阪湾(里海公園)、南は和泉山脈に囲まれ自然環境豊かな地域です。交通の便が悪く最寄り駅までは約2km余り、市役所・市民病院まで約7kmあります。箱の浦にはコンビニ1店だけで他に食料品販売店はありません。いわゆるゆる「買い物困難地域」になっています。

活動に至った背景や理由

10年ほど前から、高齢者夫婦のどちらか一方が亡くなると、一人住まいの険しさや交通の不便さから、交通の便利なところや子どもさんのところへ転居する人が少しずつ出てきました。また、定年退職者が散歩するほかはテレビのお守りをすることが多く、また高齢者から孤独が不安だという声が聞こえてくるようになりました。



設立年月	2012年6月
メンバーナンバー	60人
代表者名	岡 保正(おか・やすまさ)
連絡先	〒599-0235 大阪府阪南市箱の浦60-37 寺嶋 勝治
電話	072-474-1289 FAX 072-474-1289
メールアドレス	bkamg200@rinku.zaq.ne.jp
＜団体のミッション＞	私たち、高齢者には「いつまでも住み続けられることがある」子どもには「育ってよかった」と言われるために、行政に頼らず「箱の浦のことは箱の浦で解決し、住んで良かった箱の浦」を目的に活動しています。

活動内容と成果

1.「おしゃべりサロン」

平成24年6月の会結成とともに、住民センターで月2回「おしゃべりサロン」を開設して100円でコーヒー・紅茶・ジュースの提供を始めました。ですが、住民センターは急な階段の上にあり不便なため、同年10月に団地の中心部にある「空き事務所」を賃借・改装して「サロン」として、週2日開催することとなりました。毎回約40名が参加し和気あいあいと話しあっています。また毎週火曜日の午前中はソーシャルワーカーが常駐して、住民の医療・介護・認知症などの相談に応じています。平成25年4月からは、火・木・土の週3日の開催となっています。



4.「のびのびクラブ」

平成25年3月に箱の浦の子どもたちが「健やかに育つように」「箱の浦で育ってよかった」といわれるよう、「のびのびクラブ」を開始。竹馬遊び・ホタル観賞会・親子陶芸教室・さつま芋の苗植えと芋ほり焼き芋大会・親子ヨット体験会・親子そうめん流し・親子餅つき大会・親子タコ揚げ大会・クリスマス会など、子どもの遊び行事を月1回をメドに行っています。行事には子どもの親も参加しており、「まちづくり協議会の活動」を理解してもらうように努力しています。



2.「箱の浦・朝市」

賃借した「サロン」建物の裏の空き地を活用して、「買い物困難地域」解消にむけて地元の漁師さんや農家の人たちの協力で、平成24年11月より毎週土曜日早朝に「朝市」を開催しています。地元で採れた鮮魚・野菜などが安く購入できると大好評です。朝市は今も続いており、パン・ケーキ・お花・陶器なども販売しています。また、肉や乳製品のほか冷凍食品購入希望者がでてきたため、平成25年11月より地域の「生協」と提携して「移動販売車」の巡回販売を開始し、現在は毎週火曜日に団地内6カ所での販売を行っています。歩行困難な高齢者からは、「自宅のすぐ近くで買い物ができる」と喜ばれています。「買い物困難地域」であった箱の浦が、「朝市」と「移動販売」で「買い物困難地域」の解消ができ、阪南市内の他地域の方々から羨ましがられています。



3.「お助け隊」

高齢者の日常生活上の困りごと解消のために、有償ボランティアによる「お助け隊」を平成25年4月から発足。「お助け隊」は電球交換・水道パッキング交換・網戸張替・自転車パンク修理・庭の草刈り・植木剪定など住民の困りごとを有償で請け負っています。住民からは、「シルバーセンターより安い」「知っている人が作業してくれるので安心」と、毎年仕事を依頼される人が増えてきています。仕事をするボランティアも有償なので、「なにがしかの手間賃」になり喜ばれています。



6.「会員制・送迎便」

箱の浦から最寄りの駅まで2km以上あり、交通機関は阪南市のコミュニティバスが8時～17時に1日7便あるだけです。通勤・通学や高齢者の交通手段確保のために、平成26年4月から、箱の浦住民に限定して「会員制・送迎便」の運行を開始しました。平日の6時～8時と18時～21時30分で、現在は1日14便運行しています。高齢者の運転免許証返上が増えてきている中で、住民の交通手段確保には欠かせない事業であります。財政的には大変厳しく、「自治会」と「まちづくり協議会」の財政援助でなんとか運行を継続しています。





7.「シニアランチハウス」

高齢化が進む中で、一人暮らしの高齢者が徐々に増加しています。一人暮らしや、老々介護の高齢者が一堂に会して昼食を共にすることで、一人での食事の味気無さをなくし、栄養の偏りを少なくして、高齢者の健康保持やコミュニケーションを図ることを目指して、高齢者食事会「シニアランチハウス」を平成27年5月に開設しました。ランチハウスは「サロン」近くの空き家を賃借し、一部改装して当初は月2回(第2・4の水曜日)の開催でしたが、平成28年6月からはほぼ週1回開催しています。毎回午前11時から開催していますが、食事前には「健口体操」を、食後は歓談や、簡単なゲーム、カラオケなどで楽しんでいます。参加費は1回500円です。食事は、給食会社から「おかず」のみ配達してもらい、ごはんとみそ汁は手づくりです。毎回の参加者は20～25名です。平成28年度はこのほかに、広い会場を借りて「高齢者食事会」を3回(50～60名参加/回)開催し、近隣の医療機関などの協力を得て「認知症はこわくない」「上手な薬の飲み方」「デイサービスの利用の仕方」などの講演を行いました。



8.「子どもサロン」

放課後や休日の子どもたちの居場所づくりとして、「子どもサロン」を約1年かかって準備・建設し、平成29年3月にオープンしました。「子どもサロン」では、子どもたちが宿題をしたり、読書をしたり、遊んだりして自由に使えるようにしています。4月末には「子ども映画会」で「トイストーリー」の上映を計画し、大勢の子どもたちに参加してもらおうようにします。今後は、教員OBや学童保育の経験者、また地域の大学生などに協力してもらい、宿題などの学習支援、絵本の読み聞かせ、映画会や各種遊びなどを子どもを中心とした取り組みをしていきます。



課題と解決策

行政との連携

私たちは発足当初から「行政には頼らず」の活動をしてきましたが、取り組む内容が幅広くなり、特に「介護予防」に向けた事業や「子ども」の事業では行政との連携や協働が必要になっています。最近は、阪南市の担当課とよく話し合いをするようになってきました。

後継者育成

「まちづくり協議会」が発足して5年経過し、ボランティアが高齢化しています。そのため新しくボランティア活動に参加する人を増やす努力が必要になっています。この一年間で新規参加者は6名で、現役世代の人もいます。今後ともボランティア参加者を増やすために、各種行事を通じて協力者を募っていきます。

今後の予定

介護予防・日常生活支援サービス事業(通所型)

私たちがこれまで実施している「おしゃべりサロン」「ランチハウス」は介護予防や高齢者の生活支援ですが、これに阪南市から求められている介護保険の要支援1・2の打ち切りによる「地域の受け皿」としての業務を追加すれば、「通所型サービス」事業として開設することが可能であり、早期に取り組んでいきます。

高齢者の見守り・安否確認

これまで認知症の人の見守り・捜索はマニュアル化してある程度行つてきました。今後は、一人暮らしの高齢者の見守り・安否確認について、住民の理解・協力を得ながら取り組みを進めて行きます。

